

内閣総理大臣
表彰

東京都推薦

とう きょう しん ゆう 株式会社 東京信友

(東京都新宿区)

振動及び文字情報により、来客等の生活情報を知らせてくれる腕時計型受信器（シルウォッチ）を開発し、広く普及している。その技術は、高齢者向けあるいは自動車会社の生産ライン等でも応用され、広範に活用されている。

功 績 概 要

本会社は、代表者自身が聴覚障害者であり、自身の生活体験から聴覚障害者のための腕時計型受信器（シルウォッチ）を開発した。これは、通常は腕時計として機能しながら、必要な時に無線受信器の役割を果たすものであり、情報を受けた受信器は、先ず振動して装着者の注意を引き、続いて文字により情報内容を「ゲンカンライキャク」のように伝える。従来の聴覚障害者用機器は、家の特定の場所に置かれたランプの点滅によって来客、ファックス着信等を知る方式で、使用者は常にランプを意識しなければならない拘束感があったが、この製品開発により、聴覚障害者の自由な行動と安心に著しく貢献した。

製品化された商品は、聴覚障害者はもとより、高齢者にも利用でき、さらには産業界でもその技術は注目されるようになった。産業用としては、コンピュータとの連動で生産ラインなどの管理用として需要が増している。



腕時計型受信器



送信器

シルウォッチ

内閣府
特命担当大臣表彰
優良賞
愛知県推薦

あいちけんこうせいのうぎょうきょうどうくみあいれんごうかい
愛知県厚生農業協同組合連合会
とよたこうせいびょういん
豊田厚生病院
(愛知県豊田市)

「患者さま中心」を基本方針として掲げ、設計段階から各種障害者団体等と話し合い、身障者専用駐車場の設置を始め車椅子での移動に支障がない廊下幅の確保、大きな案内板の設置等施設整備に努め、すべての人が来訪しやすい病院づくりを推進。

功 績 概 要

地上5階、地下1階、延べ床面積約5万8千㎡の大規模病院の新築に当たり、地元住民や障害者団体の方々と話し合う等、すべての人が使いやすい病院となるよう取り組んでいる。具体的には、専用ゲートを有する屋根付の身障者専用駐車場を設けて病院まで傘をささずに病院に入ることができるようにしたり、車椅子で楽に移動できる屋内外の広い通路の確保、さらに各診療科へは大きな案内板を用いる等、きめ細やかな配慮がなされ、話し合いの結果を形として反映している。

また、「患者さま中心」の基本方針の下、すべての人が使いやすい施設にするため、人工的な施設整備に偏らず、本病院では屋上には庭園が設けられ、緑あふれる遊歩道を楽しむことができるなど、入院患者への気遣いや人間的な暖かさも合わせ持つ病院づくりを推進している。



身障者専用駐車場



屋上庭園

内閣府
特命担当大臣表彰
優良賞
岩手県推薦

カシオペア連邦はーとふる発見隊

(岩手県二戸市)

ユニバーサルデザインの視点から、地域の公共施設の点検を行い、多くの施設の改善に尽力。また、小・中学校におけるユニバーサルデザインの学習に協力する等その理解と推進にも貢献。

功 績 概 要

これまで、岩手県二戸地域における約50の公共施設について、ユニバーサルデザイン（UD）の視点からの施設点検を、本発見隊中心に市民参加で実施してきた。点検の結果については、施設管理者に伝え、改善を促すとともに、報告会等を開催して市民への周知活動を行った。改善に協力した施設に対し、感謝の意を込めて「UD推進施設証」を交付してきた。これらのことで、施設だけでなく、その地域全体のUDに関する意識改革につながり、様々なUDの視点から公共施設等の改善継続への端緒を開いた。

また、平成19年度からは、小・中学校の児童生徒にUDを広めるためにUD学習を始め、学習を申し込んできた小・中学校で実践報告会の開催などUD学習の連携・協力を行うとともに、実践事例集を作成して各小・中学校や福祉関係者に配布する等UDに関する学習、普及にも尽力している。



カシオペア連邦はーとふる発見隊公共的施設等の点検活動



UD推進施設証



小学校とのUD学習の連携協力活動

内閣府
特命担当大臣表彰
優良賞
経済産業省推薦

株式会社 タカラトミー

(東京都葛飾区)

一般に販売される玩具に少しの工夫を加え、障害のある子どもにも楽しめるようにする「共遊玩具」の発想の下、商品の開発に積極的に取り組むとともに、業界全体への普及を推進。



メロディボール（動かすとメロディが流れる共遊玩具第一号商品）



日本玩具協会が発行する視覚・聴覚障害児用玩具カタログ

功 績 概 要

昭和55年(1980年)、ハンディキャップ・玩具研究室を発足させ、障害のある子どもたちとおもちゃの実情調査の結果を踏まえ、目の不自由な子どもたちを対象とした専用の玩具づくりをめざしていた。しかしながら、経営状況等の変化により、発想の転換を図り、一般販売される商品に少しの工夫を加えることで、障害のある子供たちにも楽しめるようにする「共遊玩具」を考案した。例えば、スイッチの「ON」に凸をつけるだけで、目の不自由な子どもにも玩具のON・OFFが理解できるようになる、そのような「小さな凸の提案」から数々の共遊玩具を製品化してきた。

その後、社内に蓄積したノウハウを、自社だけで抱え込まず、それを元に業界全体での取組みとすべく、本会社が中心となり、共遊玩具づくりの提案・普及に努めた。

内閣府
特命担当大臣表彰
優良賞
厚生労働省推薦

財団法人 安全交通試験研究センター

(岡山県岡山市)

世界で初めて、視覚障害者の自立歩行を支援する「点字ブロック」の開発、製品化に成功し、その全国への普及に努め、視覚障害者の歩行の安全性の確保と社会参加の推進に尽力。

功 績 概 要

昭和40年(1965年)、本センターは創立され、点字ブロックの開発に取り組み、昭和42年(1967年)3月に、世界で初めて、視覚障害者の自立歩行を支援する点字ブロックを、岡山県立岡山盲学校近くの国道2号線の横断歩道へ寄贈し(230枚)、敷設した。

以来40年余、点字ブロックの開発・改良とともに、その普及にも取り組み、現在では、全国の道路、交差点はもとより、駅構内、改札口、バス停など、様々な生活環境の整備に敷設されている。

このように、世界初の点字ブロックを開発とその普及に尽力し、視覚障害者の移動の安全性の確保と社会参加の推進に貢献してきた。



本センター内に展示される
各種点字ブロック



点字ブロックの製作
(岡山市内の授産施設)

内閣府
特命担当大臣表彰
優良賞
厚生労働省推薦

財団法人

めいじやすだ

明治安田こころの健康財団

(東京都豊島区)

言葉によるコミュニケーションに困難のある人たちを支援する「コミュニケーション支援ボード」を開発し、全国規模で交番等に配布を行うとともに、その普及活動を行い、コミュニケーションに関するバリアフリー化に尽力。

功 績 概 要

話し言葉によるコミュニケーションの難しい人たちが直面するバリアは社会の人々には見えにくく理解されにくい。そこで、話し言葉によるコミュニケーションのバリアフリーを支援するツールとして、イラストと文字媒体による「コミュニケーション支援ボード」を開発し、その啓発・普及活動を継続してきた。特に、地方公共団体や関連機関、関連団体と協働作業を進め、身近な存在として利用頻度の高い交番等の警察用を始め、鉄道駅用、救急用、コンビニ用、災害用などカスタマイズされたコミュニケーション支援ボードの開発と普及を積み重ねてきた。調査結果によると、障害者だけでなく外国人、高齢者、幼児など幅広く利用されている。

また、著作権をフリーにして誰でも自由に使えるように、フリーリソースとして本財団ホームページよりダウンロードできるようにし、その普及に努めている。



警察版コミュニケーション支援ボード
(上：表面、下：裏面)